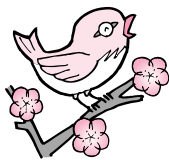


1人産めばお祝い金5,000万円。亡くなった時にも1億円の功労金付き。安心してジャンジャン子どもが産めるワンダー村の少子化対策のお話。村全部に屋根をかけて大きなドームにし、年中花が咲き、ディズニーランドや温泉があり、介護の心配のない子どももお年寄りも安心できる夢の楽園。その村では、子づくりによく効く「くずまきワイン」を飲んでいそうな。わたしたちも毎晩がんばりましょうと産子さん。謎の人物、果たしてその正体は…。



うめこ  
大井 産子さん

葛巻町民憲章推進協議会（女鹿国芳会長）主催の新年交賀会は一月四日、ふれあい宿舎グリーンテージで開かれ、約百人の町民が今年の抱負などを和やかに語り合いました。  
新春恒例のホラ吹き大会には、三組が登場。□マンあふれる町づくりの夢を語り、会場から盛んな拍手を浴びました。出席者の投票で決めた大ホラ大賞は、人形劇を熱演した大井産子さんが獲得しました。



## 町の夢 今年も語って初笑い

ホラ吹き大会

服部 健さん  
(26歳・城内小路)

「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」と町外にPRしているが、ミルクとクリーンエネルギーは目に見えても、ワインをイメージするブドウ畑は見えないのが現状。そこで「たくさんあるデントコーン畑をブドウ畑に替え、ワインのまちのイメージが伝わるようにしたい」と力説しました。仕事に対する情熱から生まれ、祖父の与五郎さんと毎晩酒を酌み交わす中で膨らんだこの夢。話す前にもやはり一杯がつきものだったようです。



南坂スガ子さん  
(57歳・市内)



恵まれた自然と関わり、上手に利用して、みんなが楽しく健康で生きていくのが里づくり。スピード時代の今、どうせなら葛巻の広い場所を利用して、いろんな場所にヘリポートを造り、ヘリコプターで関東地方に産物を輸送したり、町をPRしてもっと大勢の人を呼び込みましょう。廃校を拠点にして、世代間交流や先人の知恵を伝えていく場としていきたいと、仲間と一緒に取り組む冬の里づくりへの熱い思いを語ってくれました。